

研究テーマ	「社会的・職業的に自立する力」の育成を目指して（3年計画） ～キャリア教育に関する共通理解を通して～（1/3）
研究目標	生徒個人の共通理解だけでなく、学校のキャリア教育について全教職員で共通理解を図り、一つの方向性をもって指導に当たることにより良いキャリア教育の展開を目指す。
研究内容・方法 研究計画等	<p>研究内容</p> <p>キャリアパスポートの導入に当たり、本校の教育目標である「社会的・職業的に自立する力」を重要なワードと認識している。そこで、生徒の指導に関わる全教職員のそのワードの捉え方を知り、共通理解を図ることとした。</p> <p>研究方法と計画</p> <p>具体的には、生徒の指導に関わる全教職員に①アンケート項目の選定②アンケート作成③アンケート調査のまとめ④アンケート結果の報告を行い、それを共有することで共通理解を図る。</p> <p>また、アンケート調査を実施する前に、指導主事訪問でキャリアパスポートの記録の重要性について助言・指導をいただいたり、現場実習に関わる研究授業と検討会を行ったり、本校校長先生から研究の方向性について助言等をいただいたりして、そこで教えていただいたことも参考にアンケート調査に答えられるようにし、教職員の共通理解に生かす。</p>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>研究経過</p> <p>「社会的自立」と「職業的自立」についてアンケートを行った。社会的自立では、「日常生活」「人との合意形成」など5項目について本校で目指すものかそうでないかの選択肢を設け回答してもらい、自由記述もしてもらった。職業的自立では、「一般就労」「福祉就労」など4項目について本校で目指すものかそうでないかの選択をしてもらい、自由記述もしてもらった。</p> <p>研究成果の展望</p> <p>全員の意見を反映させたかったので、締め切り後にも声がけをし、最終的に教員32人と寄宿舎職員14人の事務部を除く全46人に回答をもらうことができた。母体数（特に寄宿舎職員）が少ないので比較は傾向として捉えることにした。</p> <p>結果として、全46名の傾向を見た。また、今までも「就労に関しては学校側」「生活に関しては寄宿舎側」というように重視してきた傾向があったので、その間に若干でも捉え方の傾向の違いが出るのかを確認してみるため、学校教員と寄宿舎職員の比較をして見た。</p> <p>現在分析中で、終了後、全員の意見から本校として目指していく方向性を絞り、全員で共通理解を図る。その方向性で指導に当たりながら、その後のキャリアパスポート作成に生かしていく。</p>